



⑧八幡橋

『都志見往来諸勝図』に載る土橋はかつて北一町にあり、八幡橋は江戸初期に付替えられた。西国街道は川を越え五日市の町並みへと通じる。

⑦がきの首地蔵

しけで死亡した船頭の霊を供養するために、井口と皆賀との村境に建てられた。岩礁「がきの首」にちなんで名付けられ、後になって境地蔵とも呼ばれた。

⑨宍戸氏館跡



⑩塩屋神社

江戸初期に開設された海老塩浜の鎮守社で、厳島神社の末社として、また五日市八幡神社の御旅所ともなり、五日市の港は繁栄を極めた。

⑨宍戸氏館跡

毛利家家臣の宍戸氏は、殿山と海老山の間に居館を構え、陶氏との厳島合戦に備えた。戦前までは石垣が残り、現在は電車軌道となっている。

古代の山陽道は都と大宰府と結ぶ唯一の大路でしたが、江戸時代になると「西国街道」と呼ばれるようになりました。街道に残る史跡をたどりながら、五日市の街をゆくりと散策してみよう。

企画・編集／五日市西国街道散策倶楽部

発行／(財)広島市ひと・まちネットワーク五日市公民館

(使用地図) 1 万分 1 地形図五日市 (1998 年国土地理院発行)

(参考文献) 「五日市町誌」五日市町、「井口村史」広島市

「古路・古道調査報告」広島市教育委員会

●この地図は国土地理院長の承認を得て、同院発行の 1 万分 1 地図を複製したものである。(承認番号 平15 中使 第38号)

平成15年度さわやかふれあい事業：実践編「街並み再発見講座」

③大歳神社

故事によると、神武天皇が船を繋いだ地にあった古社は、平安末期の万寿年間に勧請され、井口村総鎮守となり活弁の神として信仰がある。

⑥望月山

龍神山の頂上は月見の名所で望月山とも呼ばれた。西国街道を旅した頼山陽や田能村竹田は漢詩を残し、合掌院あたりからは眺望が開ける。

②正順寺

『都志見往来諸勝図』に載る本堂は広島藩主から貰い受けた護摩堂を移築したもので、山門下には江戸期の石垣が、境内には当時の老松が立つ。

⑤龍神山一里塚跡

西国街道は龍神山の尾根を伝っての峠道となり、当地に立っていた一里塚碑には、広島県里程元標から二つ目＝2 里の塚と書かれていた。

①小己斐明神

江戸中期の寛政年間に己斐村の村人に拓かれた小己斐新開の守護神で、旭山神社から分霊され、俗に子乞明神とも古くは刻印の明神ともいわれた。

④首なし地蔵

龍神山の尾根にあり、井口小学校の建設により現在地に安置された。昔、武士が切りつけたため、その後は首なし地蔵と呼ばれている。

廿日市～五日市



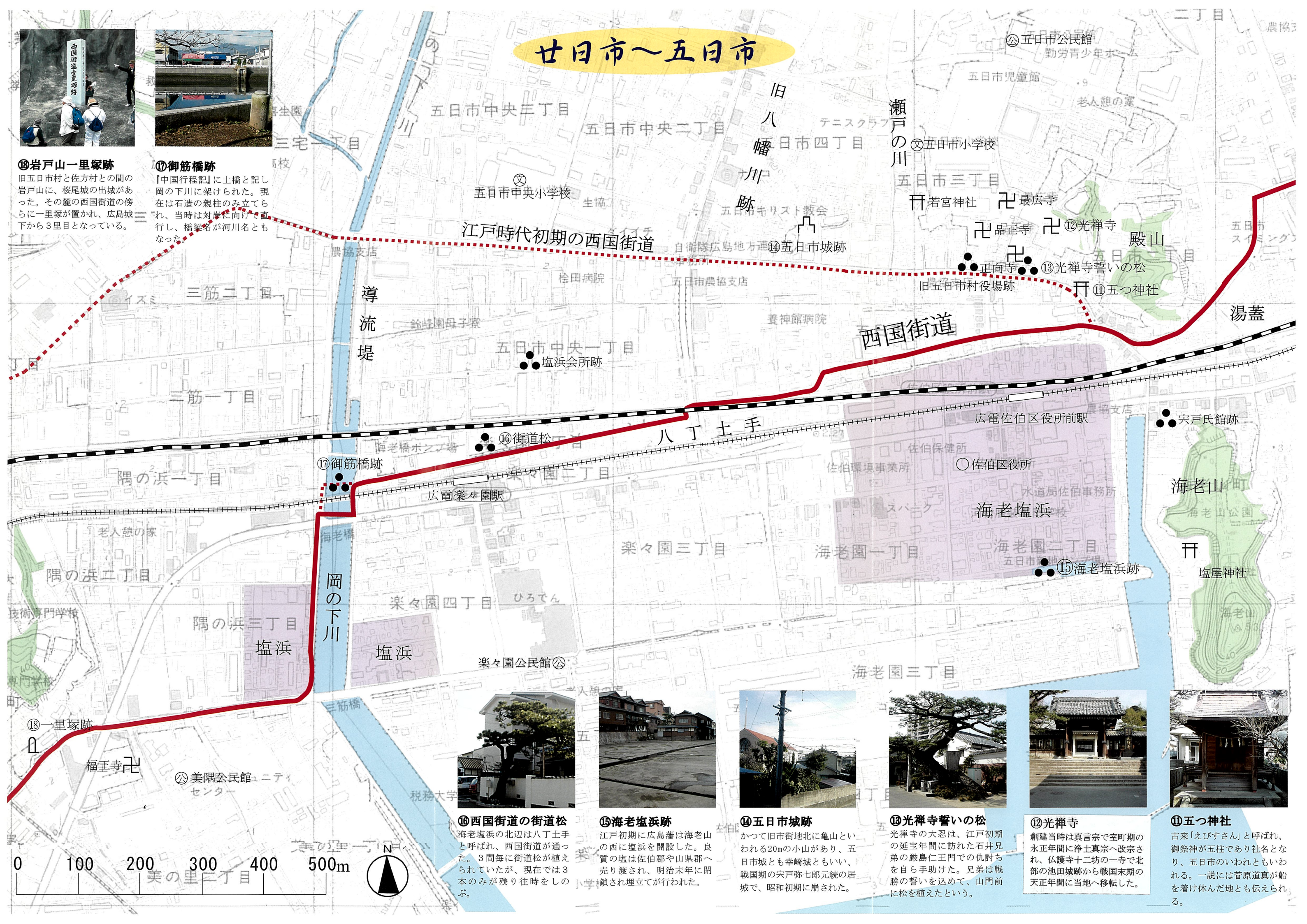
⑬岩戸山一里塚跡

旧五日市村と佐方村との間の岩戸山に、桜尾城の出城があった。その麓の西国街道の傍らに一里塚が置かれ、広島城下から3里目となっている。



⑭御筋橋跡

『中国行程記』に土橋と記し岡の下川に架けられた。現在は石造の親柱のみ立てられ、当時は対岸に向けて直行し、橋梁名が河川名ともなった。



江戸時代初期の西国街道

西国街道

八丁土手

岡の下川

導流堤

塩浜

塩浜

海老塩浜

海老山

塩屋神社

⑬一里塚跡

福王寺

⑭美隅公民館 ユニティセンター

⑮西国街道の街道松

海老塩浜の北辺は八丁土手と呼ばれ、西国街道が通った。3間毎に街道松が植えられていたが、現在では3本のみが残り往時をしのぶ。

⑯海老塩浜跡

江戸初期に広島藩は海老山の西に塩浜を開設した。良質の塩は佐伯郡や山県郡へ売り渡され、明治末年に閉鎖され埋立てが行われた。

⑰五日市城跡

かつて旧市街地北に亀山といわれる20mの小山があり、五日市城とも幸崎城ともいい、戦国期の宍戸弥七郎元統の居城で、昭和初期に崩された。

⑱光禅寺誓いの松

光禅寺の大忍は、江戸初期の延宝年間に訪れた石井兄弟の厳島仁王門での仇討ちを自ら手助けた。兄弟は戦勝の誓いを込めて、山門前に松を植えたという。

⑲光禅寺

創建当時は真言宗で室町期の永正年間に浄土真宗へ改宗され、仏護寺十二坊の一寺で北部の池田城跡から戦国末期の天正年間に当地へ移転した。

⑳五つ神社

古来「えびすさん」と呼ばれ、御祭神が五柱であり社名となり、五日市のいわれともいわれる。一説には菅原道真が船を着け休んだ地とも伝えられる。



0 100 200 300 400 500m

